

2020年7月17日発行（文責：永石）

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園四番町7-1 TEL: 0798-70-0656 FAX: 0798-72-0110
HP: <http://www.orgel-horie.or.jp/> Email: info@orgel-horie.or.jp

ニコライII世が愛したオルゴール

当館では、ロシア最後の皇帝ニコライII世にまつわるオルゴールを2台所蔵しています。毎年、命日である7月中旬に合わせて特別演奏会を行っており、今年も開催予定でしたが新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりました。そのため、今年はホームページ上にて2台のオルゴールをご紹介します。



ニコライII世 (Nikolai Aleksandrovich Romanov)

1894年、ニコライII世は、父親である当時の皇帝であったアレクサンドルIII世が崩御したことによりロシア皇帝の座につきました。保守政治を行った父親と同様に政治改革を認めることはなく、皇帝による絶対君主体制を敷きます。この他にも、モスクワとウラジオストクを結ぶシベリア鉄道の完成や東アジアへの進出、ヨーロッパへの友好政策を行いました。

19世紀のロシア

ヨーロッパでは18世紀の後半に産業革命が起こり、資本主義の時代となります。1856年、ロシア帝国はクリミア戦争に敗北しました。この時の皇帝であったアレクサンドルII世（ニコライII世の祖父）は、皇帝による専制政治の延命やロシア帝国を救うため、農奴の解放などを始めとする西欧化改革を行います。これにより商業と産業の変革が起こり、またロシアの資本主義産業が発達すると、地主貴族に代わって現れた中産階級の一部が芸術家の育成に投資を行います。これがロシア音楽の発展に繋がっていきました。



ニコライII世の治世である19世紀末～1920年頃は「銀の時代」や「ロシア・ルネッサンス」とも呼ばれ、

ロシアの芸術が発展を遂げた時代でした。音楽の分野では、『エフゲニー・オネーギン』や『くるみ割り人形』を代表作とする作曲家であるチャイコフスキーが活躍、ピアニストではラフマニノフやホロヴィッツなどが活躍しました。

文学では『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』を代表作とするトルストイや、『かもめ』や、『ヴァーニャ伯父さん』『櫻の園』を代表作とするチェーホフが戯曲や短篇を発表しており、絵画ではカンディンスキーや、シャガールが活躍、バレエも興隆を迎えました。

ニコライ2世の治世中に起こった2度の革命により、1917年にロマノフ朝は崩壊しました。しかし、銀の時代に栄えた芸術は、今もなお多くの人々に楽しまれています。

ニコライⅡ世（シリンダーオルゴール）



1878年頃／サイズH130×W160×D70

1 台目に紹介するオルゴールは 1878 年にスイスのベーカー・トロール社によって製作されたシリンダーオルゴールです。このオルゴールは、ニコライⅡ世が 10 歳の誕生日に父アレクサンドルⅢ世がプレゼントしたものだと言われています。黒檀のケースに納められ、ケースにはフランスの磁器であるセーブル焼きの絵が 3 枚飾られています。

このニコライⅡ世のシリンダーオルゴールは、旋律部分や伴奏部分といった、重要な音の櫛歯を複数枚同時に鳴らして強弱や音の揺らぎを表現する「サブライム・ハーモニー」という仕組みを使用しており、これによって通常の

シリンダーオルゴールよりも豊かな演奏をすることが可能となっています。

また、6 曲ずつ収録されたシリンダーが 10 本あり、この 1 台で 60 曲演奏することができます。当初はシリンダーがうまく回転しない、ピンが曲がってしまっている、など状態が悪く、演奏のできる状態ではありませんでした。2014 年から約 2 年間かけて修理を行い、現在では全 10 本全て演奏できるようになりました。



ステラ・インペリアル・オーケストラル (ディスクオルゴール)



2 台目は「ステラ・インペリアル・オーケストラル」というディスクオルゴールです。このケースは「ルイ 15 世様式」と呼ばれる曲線を重要視した当時の流行の形になっており、表面の牛皮に仲睦まじい恋人たちの絵を描いたものとなっています。1894 年にアレクサンドル三世が亡くなると、ニコライはロシア皇帝の座に就き、恋人であったアレクサンドラと結婚します。

1896 年にモスクワで戴冠式を行った後、ヨーロッパの各地を表敬訪問しました。その最後にパリ



ニコライ 2 世夫妻のパリ訪問の様子 (アルフレッド・ロール / Alfred Philippe Roll, 1846 - 1919)

を訪れ、フランスの大統領カルノーと父アレクサンドル三世の間で結んでいた友好の証として、1900 年に行われるパリ万博にあわせ、セーヌ川に橋を寄贈します。そしてその橋の名前に父の名前をつけ、「アレクサンドル三世橋」としました。この橋は、セーヌ川にかかっている最も美しい橋と言われており、「ステラ」のケースはアレクサンドル三世橋の装飾をした Gustave germain によって製作されています。このオルゴールは 1900 年のパリ万博に出展した後、宮殿に届けられました。

ディスクオルゴールは金属製の円盤（ディスク）1 枚で 1 曲を演奏できます。「ステラ」のためにオペラや民謡、ピアノ曲、フォークソングといった様々な曲のディスクが 1000 枚以上作られ、そのうちの約 130 枚を当館で所蔵しています。

これらのオルゴールをはじめとする財宝はロシア革命の際、経済状況を立て直すためレーニンによってアメリカへ売却されました。その後、ニコライII世のシリンダーオルゴールはアメリカのオルゴール愛好家の元へ、ステラのディスクオルゴールはイタリアの伯爵夫人の元を経てアメリカのオルゴール愛好家の元へ渡り、1990年代に当館にやってきました。



■ 西欧音楽とロシア

オルゴールが人々によって楽しまれていた時期は、ロシアではアレクサンドルII世（1818 - 1881）やアレクサンドルIII世（1845 - 1894）、ニコライII世（1868 - 1918）の時代にあたります。この時代はヨーロッパではイタリア・オペラの黄金期となり、1792年～1868年まで作曲活動を続けていたロッシーニをはじめ、ドニゼッティ、ベッリーニ、ヴェルディ、そして1858年～1924年まで作曲活動を行なったプッチーニの時代まで、イタリア・オペラは多くの人々に楽しまれていました。そのため、オルゴールにはオペラの楽曲が数多く収録されています。イタリア・オペラの他にも、フランスやドイツなど様々な国のオペラがオルゴールで楽しまれていました。1878年につく

れたニコライII世のシリンダーオルゴールには、その当時に流行していたイタリア・オペラの楽曲や歌曲、ピアノ曲のほか、シュトラウスII世によって作曲されたワルツの楽曲などが数多く収録されています。

ロシアの音楽はシリンダーオルゴールの時代ではまだヨーロッパに伝わっていませんでしたが、1885年に発明されたディスクオルゴールの時代より後になるとヨーロッパでも楽しまれるようになり、ディスクオルゴールにロシア音楽が収録されるようになりました。「ステラ」には、「近代ロシア音楽の父」とも呼ばれているグリнка作曲のオペラ『皇帝に捧げし命』や、チャイコフスキー作曲『エフゲニー・オネーギン』のほか、ロシアの国歌も演奏することができます。

参考文献

ロバート K マッシー
（佐藤俊二訳）
『ニコライ二世とアレクサンドラ皇后』
時事通信社 1997 年

土井恒之『よみがえるロマノフ家』
講談社 2005 年

海野弘『ロシアの世紀末
< 銀の時代 > への旅』
新曜社 2017 年

H・カレル＝ダンコース
（谷口侑訳）
『甦るニコライ 2 世
中断されたロシア近代化への道』
藤原書店 2001 年

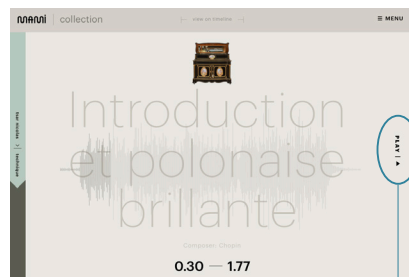
当館の英文ホームページにて
ニコライII世の演奏を 1 曲お聴きいただけます。
（ショパン作曲『序奏と華麗なるポロネーズ』）

<https://horieorgel.museum/collection/g-baker-troll-tsar-nicolas>

↑ このアドレスをクリックすると下のページが表示されます。



このページを下にスクロールすると
右の画面が表示されます



この画面で演奏が流れます。
※流れない場合は右のPLAYをクリック

当館は現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館とさせていただいていますが、
次の開館は10月1日(木)を【予定】しています。

感染予防対策を行いながらの開館となりますが、ご来館をお待ちしております。